

傾斜地くり園の樹形改造法

農業研究センター 球磨農業研究所

研究のねらい

本県におけるくり園の80%は傾斜地にあり、従来の平地での樹形改造法では低樹高の樹づくりは難しく、傾斜地での樹形改造法の確立が強く望まれている。

そこで、樹高が高くなり過ぎた現地の傾斜地くり園で、低樹高への樹形改造法を実施した。

研究の成果

1. 若木園の改造

- (1) 樹齡がまだ若い5～6年生までは“オールバック法”がよいと考えられた。この場合でも、主枝を傾斜面に平行にした状態に等間隔に配置するには、整枝剪定だけでは不可能であり、補助手段として初年目は誘引を行う必要がある。
- (2) 樹高が高くなり過ぎた園では、図1のように“パラソルカット法”を応用すると低樹高への改造がやりやすい。目標の樹高は、3～4mが適当である。
- (3) 植栽間隔は、オールバックでも5m×5m(10a当たり40本)では狭く、樹間が込み合ったら間伐を行う。
- (4) 新植からオールバックで仕立てる場合の植栽間隔は6m×6m(10a当たり27本)で、間伐樹なしの植栽が適当である。

2. 成木園の改造

- (1) 成木園では、幹が大きくて高さや方向の修正が難しいので、従来の開心自然形を傾斜面に平行した樹形に改造する“傾斜自然形”が良い。なお、傾斜が比較的ゆるやかな園では、若木園でも傾斜自然形が作りやすい。
- (2) 永久樹の植栽間隔は慣行の7m×7mで、目標樹高は3～4mが適当である。

普及上の留意点

- (1) いずれの改造法を取るにしても、垂主枝などの下枝が健全なうちに実施することが大切である。
- (2) 改造に要する期間は、園地の条件で異なるが、両者とも、おおよそ3年間をめどに実施したい。

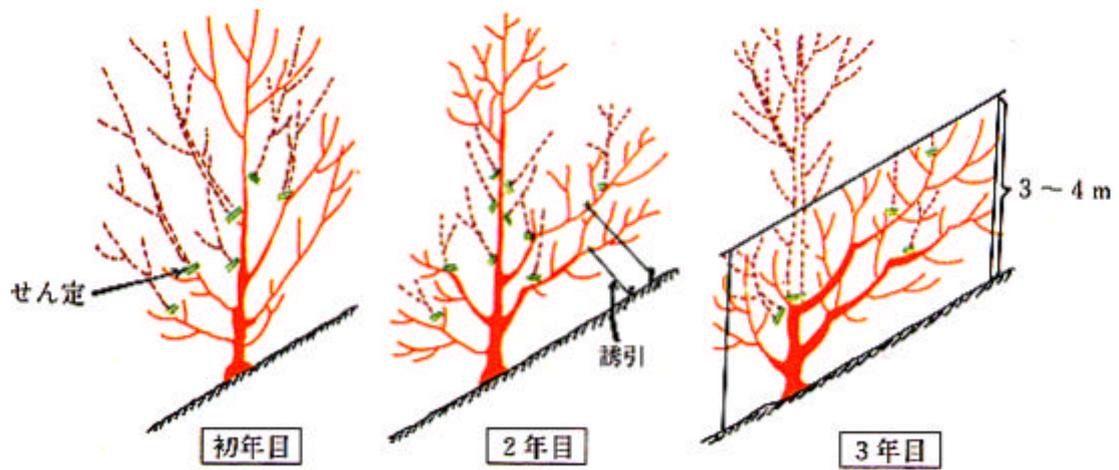


図1 オールバックへの改造法

オールバックの現地
試験圃場
(傾斜30°)



写真1 オールバックの現地試験ほ場



写真2 結実状況

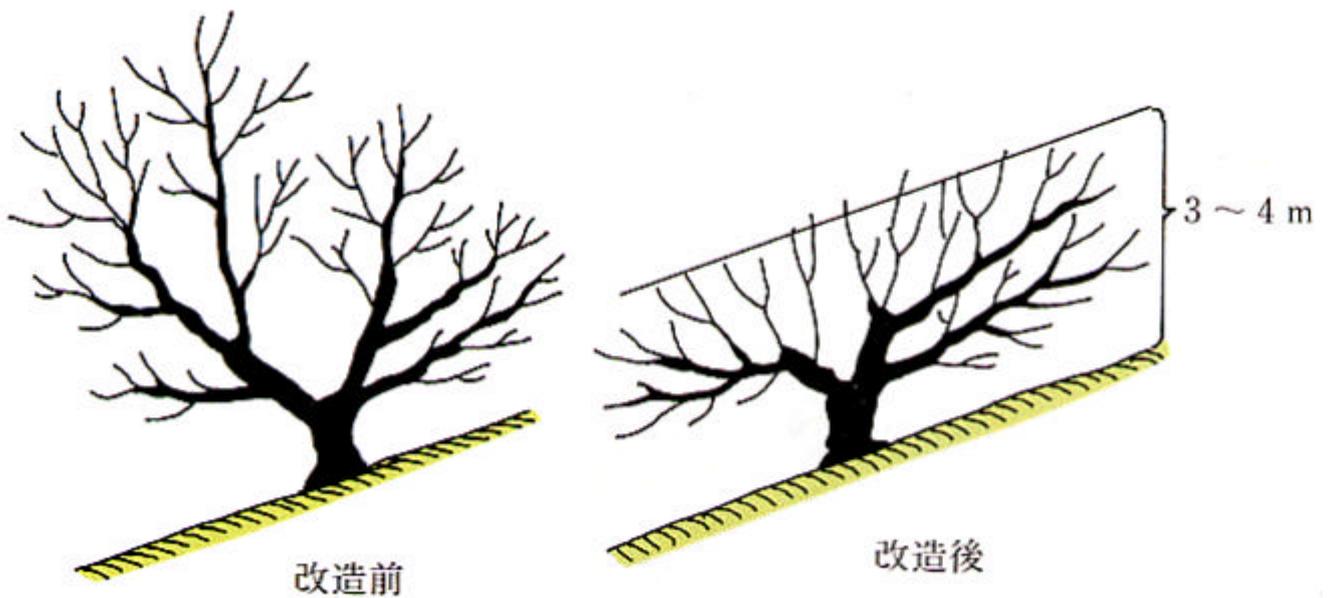


図2 傾斜自然形への改造法

